

学校教育目標	自分が好き 友だちが好き 学校が好き まちが好き					
	○自分から進んで問題を見つけ、考え、判断して取り組み、自分の見方や考え方を深めていく子どもを育てます。(知) ○互いに認め合い、支え合いながら、安心して個性を発揮し、伸ばし高め合える子どもを育てます。(徳) ○自分の健康に関心を持ち、進んで健康保持に努めるとともに、自らの体力を向上させようと取り組む子どもを育てます。(体) ○自分が生活する「まち」について理解を深め、関心を高めながら積極的に「まち」と繋がっていく子どもを育てます。(公) ○多様な文化や伝統に積極的にに関わり、それぞれのよさを受け容れ、視野を広げ、進んで行動・実践していく子どもを育てます。(開)					
学校概要	創立 148 周年	学校長 大島 宏二	副校長 山中 真紀子	2 学期制	一般学級: 32	個別支援学級: 6
	児童生徒数: 1085 人	主な関係校: 浦島丘中学校 錦台中学校 神奈川中学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	浦島丘中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
学び続ける力 健やかな心と身体 新しい時代を生き抜く対応力	浦島丘中学校 浦島小学校 神奈川小学校	人とのつながりを大切にし、ねばり強く社会を生きぬく子 「本ブロックでは、育成を目指す資質・能力を「人と人とのつながりを豊かにする社会性」、「課題解決能力」、「創造力と発信力」と設定。具現化の取組として… ・5月: 中学校の授業を3小学校が参観、授業後に協議会を実施。 ・9月: 3小学校で教科を分担して授業公開。ブロック内の小中学校職員が参観、授業後に協議会を実施。 ・10月: 児童生徒交流日に6年生が中学校を訪問、授業や部活動を体験。

中期取組目標	学校教育目標を実現するために、「活力と魅力にあふれた子安小学校づくり」を目指します。 ○職員の間僚性・協働性を高め、職員の協力支援体制・活気にあふれた学校運営組織を確立します。 ○子ども一人ひとりが、安心して気持ちよく生活・学習できる環境をつくり、楽しい学校生活を営めるようにします。 ○子ども一人ひとりが、学習の楽しさや喜びを実感できる授業づくりを推進し、子どもの学力向上を目指します。 ○家庭・地域・小中一貫教育推進ブロックと連携・協働し、社会の要請や信頼に応えた学校づくりを推進します。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①重点研授業研究を通じて授業づくりに努め、子どもの主体的な学習を実現させるとともに、主として算数の授業を中心に子どもの「伝える力」「自分の思いをもつ力」を高めていくようにする。②生活科や「横浜の時間」を中心に可能な範囲で地域や社会と関わり合う時間を設定し、問題解決的な学習を行いながら子どもの主体性や表現力を高めていくようにする。
豊かな心	①道徳科や各教科の授業において、また、感染症予防に向けた学級指導を通して、自他を思いやる心や規範意識を育てていくようにする。②人権月間に限らず、学年集会や人権教室などで、誰もが違うことを理解できるような機会を設ける。③「挨拶運動」を全校で実施し、相手に伝わる声で、自分から挨拶をする態度を育てていく。
健やかな体	①3分間の長縄に、クラス単位で記録更新を目標に年間かけて取り組む。キラキラ長縄中休みは、長縄が可能になり次第設定し、全校の記録を合計しその推移を発表する。(H29:5230回、H30:4376回、R1:5179回)また、キラキラ長縄中休みの前の3日間ほどを長縄チャレンジタイムとして全校で長縄に取り組むようにする。ただし、長縄が可能となるまでは、学年に応じた短縄チャレンジカードを配付し、授業や休み時間で取り組むことで体力の向上を図る。②11月に全校児童を対象としたけんこうアンケートを実施し、自身の生活を振り返ることで心身の健康について関心を持ち、さらに学校全体の健康課題の把握に努める。それを踏まえて感染症対策を講じながら学校保健委員会を開き、健康課題に対して発達段階に応じた手立てを発信していく。
地域との協働	①学校運営協議会を設置し、地域に報告するとともに意見交換を行い、地域と共に歩む学校運営を目指す。②こやすキラキラ応援隊(地域学校協働本部)と連携を強め、計画的に保護者・地域人材のボランティアを活用し、教育活動の充実を図る。③登下校の安全面においては地域や保護者の協力が必要になるため、情報の発信、共有に努める。感染症拡大防止の観点から方面別下校が今後も行われる可能性があるため、下校ルートを確認し、より安全に登下校できるように指導する。
キャリア教育	①地域にある工場や企業、人材を活用して、見学や体験など地域と連携した授業づくりを感染症拡大防止に注意して可能な範囲で行う。②学校行事や学年行事などを通して、また「自分づくりパスポート」を活用し、自己を見つめ将来の夢や希望をもつ機会を設定する。③地域の大人やプロフェッショナルなど、優れた人材と触れ合う機会を設ける。先行実施していたプログラミング教育を、これまでの経験を生かして行う。
情操教育	①感染症拡大防止のため音楽活動に制限があるが、聴く活動や身体表現を通してこれまで培ってきた音楽に親しむ気持ちを継続できるようにする。②「ウインターコンサート」は、映像での発表や学年ごとの開催など内容を工夫して行う。③子どもが読書に親しめるように、朝読書の時間を設けたり、学習と関連の深い図書を教室の近くに配架したりする。
いじめへの対応	①児童同士の適切な人間関係の確立や自己有用感の醸成に努め、いじめの未然防止を図る。②児童支援専任を中心とした組織的な指導・支援体制を整え、教職員が連携していじめ等問題行動の早期発見と対応を行う。いじめが起きた時には早期対応するよう職員、関係機関と連携をする。③普段から安心して相談できるような体制の構築、定期的なアンケート、個別の面談を実施して状況の把握に努める。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①校内研修の計画的な実施によって、子どもの学習や生活に対する指導力や危機管理対応能力など、今学校に求められる教職員の資質・能力の育成に努める。②校内初任者研修及びメンターチーム研修の充実、経験者層のメンターチームへの適切な参画によって、若手教職員が指導力・実践力を高められるようにする。③組織の見直し、会議の精選により、児童と向き合ったり授業準備をしたりする時間を確保する。